a cup of の文法

田　中　　実

1. はじめに

英語の物質名詞（material noun）である，tea, coffee, beer, whisky などの「飲料」は，一定の量（quantity）を表すために，安藤（2005：388）は「可算名詞の“取っ手”（＝助数詞（numerative））を付けて数えられるようにする」と述べている。（1 a–c）と（2 a–c）を参照されたい。

（1）a. a hot cup of coffee
　　b. They had a quick cup of tea.
　　c. a nice glass of whisky（以上，安藤 2005：388）
（2）a. a cup of steaming hot coffee
　　b. a glass of cold water
　　c. a cup of hot tea（以上，安藤 2005：389）

このうち，（2 c）について，Quirk *et al.*（1985：251）は，a cup of hot tea も a hot cup of tea も意味的にほとんど変わりはないとして，（3）のような等式を挙げている。

（3）a hot［cup of tea］= a cup of hot tea

つまり，（3）の等号の左右の表現はいずれも，結果的に hot が tea を修飾していることに変わりはないとする。

さらに，安井（2006：67）は，a hot cup of tea のような表現のほうが，より普通であるとして，Google による検索結果を示している。つまり，（2 a–c）の表現形式（以下，B 型）よりは，（1 a–c）の表現形式（以下，A 型）のほうが，実際には多く見られるということである。

では，なぜ，A 型のほうが多いのか，また，A 型でも B 型でも意味的に変わらないのかどうか，こういった点を本論では明らかにしたと思う(1)。

2. a cup of と a glass of

田中（2007：260–261）では，a cup of と a glass of の表現形式について，（4 a, b）のような点が指摘されている。

（4）a. a cup of は「熱い／温かい飲料」に，a glass of は「冷たい飲料」に用いられる。
b. a cup of は「非アルコール飲料」に，a glass of は「アルコール飲料」に用いられる。

しかしながら，（4 a）は一般的傾向であって，a cup of であっても，（5 a, b）に見られるように，「冷たい飲料」にも用いられるし，逆に，a glass of であっても，（6 a, b）に見られるように，「熱い／温かい飲料」にも用いられる。

（5）a. She was . . . nursing a final cup of cold Nescafe.
b. . . . and a cup of cold wine that Lady Maude pushed before him.（以上，BNC）

（6）a. She . . . poured herself a warm glass of grapefruit juice.（小西（編）2001：713）
b. A glass of hot water soothes a cough as well as . . .（BNC）

また，（4 b）も一般的傾向であって，たとえ「アルコール飲料」であっても，a cup of beer/whisky/wine も皆無ではない。（7 a, b）を参照されたい。

（7）a. . . . he had accepted a spilling cup of whisky from Donald McLaggan and . . .
b. He seemed cheerful enough, with a cup of wine in his hand.（以上，BNC）

以上のような事実を踏まえながら，本論では，主に a cup of の文法を見ていくことにする。

3. a cup of coffee

a cup of coffee について，小西（編）（2001：301–302）の見解を見ておこう。そこでは，coffee を修飾する形容詞として，(8)の（ｉ）−（vi）が挙げられている。

（8）（ｉ）味 （ii）種類 （iii）状態 （iv）色 （ｖ）香 （vi）その他

これらを同時に複数用いることは可能であり，その場合，例えば，a hot cup of coffee 対 a cup of hot coffee といった単純な表現上の対立とは異なり，実に多様な表現形式が観察される。(9 a)は（ｉ）（ii）の，(9 b)は（ｉ）（ii）（iii）の，(9 c)は（ii）（iii）の形容詞の組合せ例であると思われる。

（9）a. Shall we give them a nice sweet, hot cup of coffee?
b. a good strong cup of steaming coffee
c. the steaming hot cup of coffee（以上，BNC）

では，（10 a, b）のような場合はどうであろうか。

（10）a. Paolo personally made tiny cups of rich, dark, aromatic coffee . . .
b. As Ashley poured herself a second cup of rich dark coffee . . .（以上，BNC）

（10 a, b）において coffee を直接修飾している形容詞は，（8）に基づけば，（iv）（v）の形容詞である。これらの形容詞（rich, dark, aromatic）は，果たして，cup の直前に置くことは可能なのであろうか。

まず，rich については，BNC ではその用例は検索できなかったが，Google には（11）のような例が見られる。

（11）Make a rich cup of coffee through the use of an espresso machine.

しかし，dark（や black）のそのような例は BNC にも Google にも見られない。

（12）*a dark/ black cup of coffee

これはつまり，dark coffee や black coffee がそれぞれ，rich coffee などとは異なり，定着した 1 つのコーヒーの種類とみなされるからで，coffee から切り離すことができないからだと思われる。それに対して，aromatic は（13 a, b）のいずれも可能である。

（13）a. a cup of aromatic coffee
b. an aromatic cup of coffee

これはつまり，aromatic coffee は，dark coffee や black coffee ほどは定着した 1 つのコーヒーの種類としては認められていないからで，aromatic は cup の直前にも置けるのである。

では，（vi）の形容詞であると考えられる refreshing についてはどうであろうか。（14 a）は coffee ではなく，tea の例であるが，ネイティブ・チェックによれば，coffee であっても（14 b）のように容認可能であるが，（14 c）は容認されない(2)。

（14）a. . . . with a refreshing cup of tea and home-made biscuits (BNC)
b. a refreshing cup of coffee
c.* a cup of refreshing coffee

これは，なぜであろうか。その理由としては，次の 2 つのことが考えられる。すなわち，1 つには，refreshing の場合，refresh する主体は coffee ではなく，それを飲む人であることから，coffee に隣接して refreshing という形容詞を置くことは認められず，いわば距離を置いて，転位修飾された，間接的な形式の（14 b）にする必要があるからであろう。そして，2 つめの理由としては，後段でも触れるように，refreshing のように「気分をさわやかにしてくれる」といった主観的な思いを表す形容詞は，Athanasiadou（2006 : 220）などが指摘するように，なるべく語句の左手に置く必要があるからであろう。

4. a cup of coffee と共起する形容詞

小西（編）（2001 : 301–302, 1599）では，coffee（と tea）に連語する形容詞が（8）のように 6 つのパターンに分けられ，それぞれに，（15）のような形容詞の例が挙げられている。

（15）（ i ）味 good, great, nice, strong, sweet, thick, thin, watery, weak, *etc.*

（ ii ）種類 decaffeinated, ground, iced, instant, real, regular, *etc.*

（iii）状態 cold, creamy, fresh, hot, scalding, stale, steaming, tepid, *etc.*

（iv）色 black, milky, white, *etc.*

（ v ）香 aromatic, *etc.*

（vi）その他 refreshing, *etc.*

これらの形容詞が，A 型（すなわち，「容器」の直前に置かれる）か，B 型（すなわち，「飲料」の直前に置かれる）のいずれで用いられているかを BNC で検索した結果が（16）である(3)。

（16）

	A 型	B 型
（ i ）good	13	2
great	1	0
nice	53	0
strong	10	8
sweet	0	4
thin	0	1
weak	0	3
（ ii ）instant	1	4
（iii）cold	1	10
fresh	5	0
hot	19	26
scalding	0	1
steaming	1	2
warm	0	3
（iv）black	1	8
milky	0	3
white	0	2
（vi）refreshing	1	0

まず，（16）の表のうち，hot と cold については，「容器」よりも「飲料」の直前に置かれることが多いが，これは，「飲料」そのものの特性として，hot か cold かが話題にされる傾向が強いことを示すものである。次に，nice は 100 パーセント「容器」の直前に置かれる。この点は，ネイティブ・チェックでも，nice は「容器」の直前に置くのが自然だとの答えが得られた。（17 a, b）は，a nice cup of tea と a nice cup of coffee の例である。

（17）a. Sit yourself down and have a nice cup of tea.
b. I always hang up promptly and go out for a nice cup of coffee to cheer myself up.（以上，BNC）

（17 a, b）の当該部分はそれぞれ，「1 杯のおいしいティー／コーヒー」と解釈することができるが，Quirk *et al.*（1985：251）によれば，このような場合，nice は，ほぼ welcome に相当し，「歓迎する」ことは「おいしいものを提供する」ことにつながると述べている。もしそうならば，（17 a）には「お座りになって歓迎のお茶をお召し上がりください」，そして（17 b）には「私はいつもすぐに電話を切って，自らを元気づけて迎えてくれるコーヒーを求めに出かける」といったニュアンスが伴うかもしれない(4)。

この点は，金澤（2008：30–32）の言う，転位修飾が本来，持ち合わせている 3 つの意味的機能の 1 つである（18 c）とも合致する。

（18）a. 主語名詞によって表される実体の状態
b. 動作の様態
c. 事象に対する話者の判断

つまり，（18 c）から，（17 a, b）ではそれぞれ，話者が歓迎する，あるいは歓迎されているという思いが，nice という形容詞によって間接的に表現されている，と言える。このことは，3 節で挙げた Athanasiadou（2006：220）

などが主張する，主観的意味合いをもつ形容詞は語句の左手に置かれるとする考え方とも合致している。つまり，nice のような「事象に対する話者の判断」，すなわち，主観的判断を示す形容詞は，＊a cup of nice coffee（B 型）ではなく，nice をなるべく左手に置いた a nice cup of coffee（A 型）が好まれるということである。

では，なぜ，主観的な形容詞は語句の左手に置かれるのであろうか。それは一般に，心理的には，話し手は自分の思いの丈を先ずもって吐露したいと考えるからであろう。その場合，英語のように右展開の言語においては，主観的意味合いをもつ語句は勢い文頭，すなわち，左手に出現することになるのである。

5. おわりに

ここで，冒頭に掲げた（1 a）と（2 c）を，再掲してみよう。

（19）a. a hot cup of coffee（＝（1 a））
　　b. a cup of hot tea（＝（2 c））

（19 a, b）について，本論での考察から言えることは，次のような点である。すなわち，（16）の表から，hot のような形容詞は，a cup of の文法において，A 型（19 例），B 型（26 例）のいずれをもとることができるが，もし hot であることを主観的に把握した場合は，（19 a）のような A 型が，もし hot であることが客観的に把握された場合には，（19 b）のような B 型が選択される。

他方，cold のような形容詞の場合，（16）の表から，A 型（1 例）は B 型（10 例）に比べると少ないが，これは，cold であるという「状態」は客観的に把握される傾向が強いということになるのであろうか。

注

(1) 本論での例文は，主に BNC からのものである。検索には芳野真実さん（本学言語コミュニケーション文化研究科博士後期課程 3 年）の手を煩わしている。ここに記して，感謝の意を表したいと思う。

さらに，もう一つ触れておきたい点は，a cup of のようなごくなじみの表現について，その用法の実態を把握するには，各種コーパスを用いなくても，信頼のおける 1 つのコーパス用いれば十分なので，本論では BNC を主に使用したという点である。

なお，（1 b）は「彼らは一気に紅茶を飲みほした」という文意で，They had a cup of tea quickly. のようにパラフレーズされる。つまり，（1 b）の quick は，本来，動詞句修飾の様態の副詞である quickly が転位修飾（transferred epithet）によって，quick に置き換えられて cup を修飾する形になっているので，（1 b）のような例は本論では扱わない。

(2) やや特殊な例として，refreshing が「飲料」の直前に置かれた例，すなわち，B 型が次のように 1 例，観察された。

> The pause was just me thinking, working out how I feel about this . . . and, if I'm honest, it allowed me to savour a cup of refreshing Yorkshire Tea − the taste of the Dales − with just a dash of fresh, organic, semi-skimmed milk − the taste of . . . a cow.（http : //www.guardian.co.uk/commentisfree/2010/jan/04/ products–stealthily–plugging–blatant–way）

しかしながら，この例では，refreshing が修飾するのは Yorkshire Tea という商品名の固有名詞であり，いわば“Refreshing Yorkshire Tea”が意味的に 1 つのまとまりのある単位として用いられている特殊な例であると言える。

(3) （16）の表には，（15）（ i ）−（vi）のうち，BNC で検索できなかった形容詞は省いている。

ちなみに，cup の直前に形容詞が置かれる例は，BNC では約 180 例，そして glass の直前に形容詞が置かれる例は約 130 例，それぞれ，見かけられた。

(4) こうした「歓迎」の気持ちは，welcome（ありがたい，歓迎すべき）という形容詞そのものを用いた表現によっても，次のように用いることができる。

> Off then for a drive around the edges of Constable country where the scenery was very impressive, before stopping for a welcome cup of tea before the return journey home.（BNC）

参考文献

安藤貞雄．2005.『現代英文法講義』東京：開拓社.

Athanasiadou, A. 2006. 'Adjectives and Subjectivity' *Subjectification* by Athana-

siadou, A. *et al.*（eds.）209–239. New York : Mouton de Gruyter.
金澤俊吾．2008.「英文法－理論と事実の接点を求めて（22）転位修飾表現とその修飾関係の多様性について」『英語青年』1 月号，614–616.
小西友七（編）．2001.『英語基本名詞辞典』東京：研究社出版.
Quirk, R. *et al.* 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language.* London : Longman.
田中　実．2007.『英語構文ニュアンス事典』東京：北星堂書店.
安井　泉．2006.「英語表現のバリエーション　語彙と構文の英文法（2）」『英語教育』5 月号，66–68.

コーパス

BNC : British National Corpus

――文学部教授――